
黒の世界

純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒の世界

【著者名】

Z85910

【あらすじ】

童謡をお話にしてみました。

この曲がつづいています（前書き）

暗いです。

多分重いです。

苦手な方はご注意を。

「いつ出張？」

鈴木タ子は絶頂の幸せの中にいた。

好きな人の子供を身ごもり、そして結婚をしたからだ。
タ子は結婚をしたいが為、色々の事をやつてきた。
だが、多少汚い手を使つたが誰しもやつていること、そう言つ考え
を持つた人間だった。

その日タ子は、友人と食事をする為街にくり出していた。
そして待ち合わせ場所で友人と落ち合い、レストランで食事をして
いる。

「お腹、大きくなつたね。」

「そうね、だんだん大きくなつてくるのを見ているのがとても幸せ。」

タ子は大きくなつているお腹をさすりながら答えた。

「……そういえば、鈴木さん出張でさみしいでしょ？」

「そうなの。でも一人じゃないから大丈夫よ。」

友人は同じ会社で働いていた同僚だ。

そしてタ子と結婚した男性も同じ会社の先輩だった。

「そうだ！あなたはどうなの？」

「ちょっと前、彼氏できたって言つてたじゃない。」

「……うん、別れちゃつた。」

「そうなの…。原因は？」

「ちょっとね。嫌いになつたわけじゃない。」

でも別れなくてはいけない状況に追い込まれたつて感じかな。」

彼女は苦く笑いながら答えた。

そんな彼女を見ながら夕子は優越感に浸っていた。 だつて、自分より美人な彼女が不幸になつていて、感を感じるものだ。

いつもいつも彼女の方が目立つていた。 容姿でも仕事でも。

だから、言つてしまつた。

「大丈夫よ。きっとすぐにいい人が見つかるわ。」

何も知らないのに。

「そうね…、ありがとう。

ところでいつ予定日だっだかしら。」

「あと3カ月。

早く会いたいわ。」

その後も1時間程話し、帰ることになった。

かごめかごめ

籠のなかの鳥はいついつ出会いつ

だあれ？（前書き）

黒の世界の続きです。

暗いし、残酷な表現が入ってくるので苦手な方は、ご注意ください。

だあれ？

友人と話しこんでいたら遅くなってしまった。

夕子は駆け足で、そして慎重に家路を急いでいた。

住宅地は街灯があるが人通りが少ない。
少し不安に思いながら足を進めていく。

夕子は携帯で話ながら歩くと防犯にいいと言つ事を思い出した。
鞄から携帯を取り出し夫のアドレスを呼び出す。

「やついえ、ば出張に行つてから一回も連絡がないわ。
少し言つてあげなくちゃ。」

それから携帯に電話をかけ始めた。
コール音が続く。

でも、彼がそれに出ることは無かつた。

「全く、私からの電話は出てつて言つてるの。」

夕子は諦め、携帯を鞄にしました。
だれもいない道を進んでいく。

もう少しで家につくと言つと所に急な階段がある。
それを考え夕子は嫌な気分になった。
妊婦な自分には怖い階段。

あの階段があるから遅くならないよう気をつけっていたのに。

「子供が産まれたら引っ越すようになってしましょう。」

あの階段は子供には危険だし。「

タ子は彼が帰ってきたら相談しようと決めた。

でもなぜ彼はこんな場所に家を決めたのだろう。
駅からも少し離れているのに。

疑問に思つたが、とうとうその場所についてしまつた。

タ子は一息吐いて慎重に一段目に足を下ろした。

その時、背中が押されたのが分かつた。

何も考えられなかつた。

分かるのは、自分が落ちていくことだけ。
せめて自分を押しした人の顔を見ようとthoughtても暗くて分からぬ。

考えられたのはそこまでだつた。

あとはもう黒しか分からなかつた。

タ子が完全に動かなくなつたのを見て
その人はその場を離れた。

この場所は人通りが少ない。

タ子はこのままになるだろ?。

「自業自得」

その言葉を残してその人はその場を去った。

夜明けの晩に
鶴と亀が滑つた
うしろの正面だあれ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8591o/>

黒の世界

2010年11月15日15時34分発行